オル号沈没事故の起こった4月16

日の当日、朴槿恵大統領が7時間

にわたり所在不明であったことを

報じた。この産経記事に対して韓

国の市民団体が大統領の名誉を毀

損するものだと反発。団体の告発

を受けてソウル中央地検が加藤氏

あってはならないと考えたからで ある。いかな韓国といえどもそこ 加藤氏の処遇に少しでも悪影響が 訴となった。私はこの件に関して まで理にかなわぬ決定を下すこと 公には一言も発してこなかった。 なる出国禁止措置を受け、在宅起 局長がソウル中央地検により度重 ことでもある。無念である。 加藤氏がウェブサイトで、セウ あるまいという思いがあっての 産経新聞の加藤達也前ソウル支

## ダブルスタンダードの処分

における名誉毀損により起訴する 国禁止措置を経て、情報通信網法 を事情聴取のために出頭させ、出

白の7時間」について然るべき説

そのうえで朝鮮日報はこの「空

した」と報じたのである。

にいたったのである。

鮮日報のコラムに素材を得てお 事のほとんどは韓国の大手紙、朝 取材で書かれたものではない。記 ウェブ記事はソウル支局の独自

ラムによれば、と再三、ことわり 朝鮮日報のコラムは、7月7日 実際、記事は"朝鮮日報のコ

7時間、対面での報告も、大統領 時ごろ、朴大統領が書面で初めて 報告を受けてから中央災難(災 号沈没事故が発生した日の午前10 そのやりとりからみて一セウォル とのやりとりを紹介。朝鮮日報は 主宰の会議もなかったことが判明 安全対策本部に出向くまでの

に、このコラムを紹介する形で記 内で流れているあらぬ噂を否定で 明がなされなければ、すでに韓国 経支局長もそうみなしたがゆえ につながると警告する。 きず、大統領支持率の一段の低一 優れたコラムだと私は思う。産

の国会運営委員会での大統領府秘

検が加藤氏に出頭を命じ、大統領 ーナリズムに依拠して記事を発信 ネットワークの根を張る現地ジャ 派員が、権力中枢にまで深い取材 府もまた産経に民事・刑事上の責 事を書いたのであろう。外国の特 することはよくあることだ。 にもかかわらず、ソウル中央地

る』と表明するにいたった。他 普を毀損する<br />
悪意ある<br />
報道であ 述べた。韓国外務省報道官までが 任を問うことを検討している旨を "流言飛語をもとに国家元首の名 看過しえない重大な問題であ

拓殖大学総長

い。ダブルスタンダードである。 朝鮮日報には法的な咎めはな

これを拒否したのは当然である。 韓国当局のいらだちの宴

記事取り消しを求められた産経が

方

までがこの御し難い世論に動かさ ェック機能が働かないのである。 れて日本への恫喝まがいの挙に出 を言っても許されるという風潮が 在の韓国には、日本に対しては何 ても、これを押し止める社会のチ 蔓延しているのであろう。公権力 事が万事である。要するに現

> 聞報道の欺瞞性を一貫して批判しらだっているのであろう。朝日新 消し、慰安婦と女子挺身隊との混する「吉田清治証言」の記事取り てきたのが産経新聞である。 同についての釈明に韓国当局はい 本政府の検証や、韓国が当てにし てきた朝日新聞の慰安婦問題に関 河野談話の作成過程に関する日

清算しなければ気がすまないので するにはそういうやり方で過去を ない。冷酷無比な日本統治時代の れ、あまつさえ併合されてしまっ でまっすぐに立ってはいられない い。大韓民国の建国物語を再構築 的に貶めねば身の証が立てられた 象徴たる慰安婦問題で日本を徹底 たという歴史は清算されねばなら る。典雅なる王朝国家・朝鮮が という韓国民の感覚のゆえであ 算」をすまさなければ自分の足腰 本との関係において一度「歴史清 反日的なのか。一言でいえば、日 変夷。たる日本によって侵略さ 体、どうして韓国はこうまで

中国膨張で広がる反日空間

それでは反日がなぜ今なのか。

る「空間」がついに韓国には大き く広がったのである。 的センチメントを堂々と表出でき らには心強いものがあろう。反日 たという事情がある。伝統的に には、日本が平成不況にはまり込 になったという自負がある。他 んでかつての勢いを失ってしまっ 「事大」してきた中国の膨張も彼 規模で世界14位、もう先進国 方には、GDP (国内総生

擲されてしまう。日本との関係にとの関係となればいとも簡単に放約という国際条約とて、こと日本 ついてだけは、韓国は法治国家で 原則たる事後法禁止や日韓基本条 物である。近代法の最も基本的な 清算という韓国に固有な思想の産 に関する判決などは、すべて歴史 重工の元徴用工への賠償金支払い 法裁判所判決、新日鉄住金や三菱 府が放棄するのは違憲だとする憲 定、元慰安婦の個人請求権を行政 の子孫の財産没収を定めた法律制 日本統治時代の「対日協力者」

いう果たせぬ夢を追いつづける幻 なくともかまわない。歴史清算と (わたなべ としお) 2014, 10, 13

想国家に未来は開けまい。